

# ゆきぎのみち

日本古神  
道研究会

## 『米国テロ事件に』

### 世界動向の本質を見よ』

去る九月十一日に発生した、米国同時多発テロ事件とその後の情勢が世界中を賑わしておりますが、やれ「報復だ、戦争だ」ということばかりが報道されている中で、冷静に本質を見ていくという姿勢が、一時の感情や煽動によって見失われがちになっていくのではないのでしょうか。世界中で争いが絶えない現状に対しては、そうしたことの元凶を正すことが根本的に必要ではないでしょうか。今月号は、このテロ事件についての本質に目を向けてみたいと思います。まずは、読者の方より事件に対するご意見として頂きましたお手紙を紹介させていただきます。

#### お手紙より

九月十一日に何者とも知れぬが、アメリカをハイジャックするという奇抜な手法を以て、襲撃した。大統領をも襲撃目標に選んでいたという。さもありなんと思ふ。ジャーナリズムは無実の市民の悲惨な姿を伝えるが、私たちは事の本質を見誤ってはならない。

このテロは、アメリカの思い上った武力と、アメリカ型資本主

義、飽くなき収奪の結果としての富と、アメリカ民主主義の仮面をかぶったアメリカ帝国主義を一身に持つ権力者を狙ったもので、その意味では正統派の、的を絞った最高のプランであった。

無実の市民が巻き込まれたのは大変痛ましいことではあるが、これは近代の不幸であり、もつといえ、アメリカ型民主主義は大衆を巻き込むことによって成立しているのであるから、アメリカ型民主主義の不幸に帰すべきものであり、テロリストの本意でないことは明らかである。

アメリカは依怙鬻賈する国である。かつて支那に依怙鬻賈し、遂に日本に戈を執らせるに至った。日本に原爆を二度にわたって投下し、無実の市民を大量に殺したことについて、未だ謝罪を表明しない国である。

イラクでのゲーム遊びに似た殺戮行為を反省もせず、現在ではイスラエルに必要以上に肩入れし、パレスチナ市民は絶望的抵抗を余儀なくされている。

今度のテロでは大統領をも狙ったが果たせなかったという。果たせなかったとはいえ、これに任じたテロリストの心事は天晴れというほかはない。かつては、刺客は王または執政官一人を屠ればよかった。現在、政治は政体化し、鶴の如き存在であり、一人を倒して事が成就するものではない。

その意味でテロリズムはアナクロニズム化したといえなくもないが、しかし、決意を以て立ち上った志は並みのものでなく、現代の大多数の日本人は彼を仰いで、自らは恥じ入るべきだろう。アメリカは高潔な志を持ち得ない国のようなものである。アメリカ型民主主義の根源は大衆である。大衆を指導するのはマスコミ型指導

力で、一挙に大量に声を高めるのを得意としている。テロの目標はアメリカ市民でなくて、アメリカ政治にある。勿論、アメリカ政府はそれを知っていて、これを戦争と称し、市民を駆り立てようとしている。

アメリカは自ら世界の指導者を以て任じているが、自ら主導する政治に全く非がないと思ひ込んでいるようである。世界一の超大国となったアメリカは富と力を誇るが、絶対正義の存在を西歐に置き、その中心に自ら座る方式は、人類史上かつてない負をアジア・アラブ・アフリカ諸国に背負わせている。こうした国々は歴史的栄光、または光輝ある土俗をアメリカに売り渡すしか生きる方途はない。とすれば栄光ある歴史を未来にわたって背負うべき民にとるべき道は一つしかない。

暴力を顕示する国防総省を撃ち、富を象徴する貿易センターを倒し、最高権力者を襲う大事こそは逸したが、一命を拠つてアメリカに猛省を促したテロリストたちは、烈士、義士といふべきである。

アメリカは一人の志を懐く器量がない。深い深い井戸の底から湧くのを志というならば、アメリカはその水を汲む長い長い釣瓶を持ってないのである。

プロレスを生んだアメリカはプロレス型の国である。プロレスはいかにも異様なもので健全なるスポーツとは言ひ難い。人間の人間たるゆえんは力ではない。二十世紀、ソビエトというこれも異質な国が出現した時、これに対峙する国が必要とされ、ソビエト崩壊後、肥大化の歯止めがなくなつた国である。アメリカは歴史的役割を終えるべき時が来た。

アメリカは必ず衰退に向う。衰退の原因を他者に求め、反省することが薄ければ薄いほど衰退は早まるであろう。それが歴史の教えるところである。

アメリカはこれを好機として、イスラム憎悪、アラブ憎悪を煽るのである。日本人にとっては、かつての排日運動はこのようであつたのかと、この目で確かめる好機である。

それにしても、権力者はいつの世でも短兵急に襲われると弱いことが、またも証明された。権力者はテロリストを狂人として扱うであろうことは、これ又、歴史上の常である。

本日のマスコミ報道では、首謀者をビンラーディンと断定しているようで、彼を圧殺する心算のようだが、これだけの志士の心を攪るとすれば、彼も又、一世の傑物であり、殺してはなるまい。

テロリストの心事を偲びながら、私は二・二六事件当夜の当直将校でありながら、これに参加した野中四郎大尉が、当直日誌の末尾に記した「われ狂か愚か知らず一路遂に奔騰するのみ」を想起する。

以上

## 大局を見て 判断せよ

師 これはある神社の禰宜(神主)さんから  
の御手紙です。それだけに示唆に富んだものが  
あります。

私も今のように小泉首相が「ああだこうだ」と、すぐにブツブツ大統領に迎合するのはちよつとやめておかないと、後が大変だなあと思います。その時の感情でもつてぱつとこうやってしまつて、大局を見誤つた時に、「お前そう言つたじゃないか」と言われたら困るだろうと思う。早速パウエル国務長官が「国旗を見せ

る」って言うことを言っている。

湾岸戦争の時には一人一万円に相当する、一兆円以上というものを提供したけれども、これがまったく生かされないで、湾岸戦争終結後クウェート政府が感謝の意を表した三十数ヶ国の中に、日本は入っていないかった。人が見えないというので、一兆円からの資金を出していながら何の評価も得られなかっただけでなく、むしろ「日本は何もしてくれない」という非難を浴びたのです。

我々にとっては、一万円だって大変だ。お金を出して文句を言われるくらいなら、皆に一万円ずつ返してくれて言いたい。アメリカにやる金があるのなら、税金取るなって言いたい。外国にやる金があるのなら、日本経済を立て直せと言いたい。

この点は昔からそうなんだ。災害救助などで外国に送る時でも、日本は金や物資だけを送る。その物資を運ぶのはフランスの飛行機だったり、ドイツの飛行機だったり、イギリスの飛行機だったりするものだから、現地の人達はフランスが提供してくれた、ドイツがしてくれた、イギリスが持ってきてくれたとなる。日本の飛行機や艦船が現地にはないからだ。これは大変損なやり方だ。

一兆円から上の資金を出しながら、何の評価も得られなかった。それで小泉総理も焦っているのかも知れないが、今度は親日家だと言われている副長官が先に言ったということだけれども、それを受けてパウエル長官が「日の丸を見せよ」ということを言ってきたから、急遽自衛隊を派遣することにしたのだろう。

しかし、アメリカがどういう作戦をとるかさえ決まっていない段階で「後方支援します」と言うから、アメリカの方が困っている。打ち明けなくてはいけないでしょ。手の内を見せなくてはいい

けなくなる。公表もしていないのに日本が先走ってボンとするものだから、アメリカの方も困っている。

噛み合っていない。アメリカ自身も「フラッグを見せよ」と言うから日本も慌ててやったわけで、ブッシュ大統領の方は、何をどうするかをまだ公表していない段階で、そういう早とちりをしている。勇み足をしているから、今度もまた叩かれると思う。

## 日本人は 度量で測れ

本当に肝っ玉が座っていて、「日本としてはここまでは出来るけれども、ここから先はできない。それにあなた達は『復讐、復讐』と言っているけれども、それは日本の侍時代の敵討の話と同じではないか。世界史を見たって、ハムラビ法典の『目には目を』という時代と何も変わっていない。あなた達は文化人ではないのか」と言っ

て論ずる人はいないのかと言いたい。

逆にアメリカとしては、「日本は金を出さだけで、日本人は何もしない」ということで、要するに「目に見えた支援をせい、今回も協力をするといいのなら、国旗が見えるようにせいと。要するに日本の国旗の見える飛行機なり、軍艦をよこせ」ということを言うのだろうが、金だけはよその国の何倍も出させられて、それでいて要するに「国旗は見えない、日本は何の支援もしなかった」という言い方をされて黙っている事はない。

「日本はアメリカの属国ではない」ということをはっきりと言わなければならない。仲間として、同盟国として行っ範囲と、属国として行っ範囲は、自ずから異なるはず。もう逆に言ったらアメリカはブッシュ大統領でもって潰れるわな、もう権威は失墜して、終わる。